

第32回 定時株主総会 招集ご通知

開催
日時

2023年6月27日（火曜日）
午前10時（受付開始：午前9時30分）

開催
場所

東京都港区新橋一丁目12番9号
AP新橋 4階 Dルーム
（新橋プレイス）

目次

第32回定時株主総会招集ご通知	1
事業報告	3
連結計算書類	20
計算書類	23
監査報告書	26
株主総会参考書類	32
第1号議案 剰余金の処分の件	
第2号議案 監査役1名選任の件	

議決権行使期限

2023年6月26日（月曜日）午後6時まで



株式会社 ケアサービス

証券コード：2425

証券コード 2425
2023年6月9日
(電子提供措置の開始日2023年6月5日)

株 主 各 位

東京都大田区大森北一丁目2番3号
株式会社ケアサービス
代表取締役社長 福原 俊晴

第32回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第32回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申し上げます。

本株主総会の招集に際しては電子提供措置をとっており、インターネット上の下記ウェブサイトに電子提供措置事項を掲載しておりますので、いずれかのウェブサイトにアクセスのうえ、ご確認くださいませようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面により議決権を行使することができますので、お手数ながら電子提供措置事項に掲載の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、2023年6月26日(月曜日)午後6時までに到着するようご返送くださいますようお願い申し上げます。

敬具

当社ウェブサイト <https://www.care.co.jp/ir/stock/meeting>



東京証券取引所ウェブサイト

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>



※東京証券取引所ウェブサイトでご確認いただく場合は、上記ウェブサイトアクセス後、当社名または証券コードを入力・検索し、「基本情報」、「縦覧書類/PR情報」を順に選択のうえ、ご覧ください。

記

1. 日 時 2023年6月27日(火曜日)午前10時
(受付開始時間は午前9時30分となっております)
2. 場 所 東京都港区新橋一丁目12番9号 新橋プレイス
A P新橋 4階 Dルーム
3. 目的事項
報告事項
 1. 第32期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)
事業報告、連結計算書類の内容ならびに会計監査人及び監査役会の連結
計算書類監査結果報告の件
 2. 第32期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)
計算書類の内容報告の件

決議事項

第1号議案 剰余金の処分の件

第2号議案 監査役1名選任の件

4. その他の決定事項

議決権行使書において、議案に賛否の表示がない場合は、賛成の意思表示をされたものとして取り扱わせていただきます。

以上

~~~~~  
当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。また、資源節約のため、この「招集ご通知」をご持参くださいますようお願い申し上げます。なお、電子提供措置事項に修正が生じた場合は、掲載している各ウェブサイトに掲載させていただきます。

ご送付している書面は、書面交付請求に基づく電子提供措置事項記載書面を兼ねております。なお、法令及び当社定款第15条の規定に基づき、下記の事項を除いております。したがって、当該書面は監査報告を作成するに際し、監査役及び会計監査人が監査をした書類の一部であります。

- ・ 主要な事業内容
- ・ 主要な事業所
- ・ 従業員の状況
- ・ 主要な借入先の状況
- ・ その他企業集団の現況に関する重要な事項
- ・ 大株主(上位10名)
- ・ 社外役員に関する事項
- ・ 会計監査人の状況
- ・ 業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況の概要
- ・ 会社の支配に関する基本方針
- ・ 剰余金の配当等の決定に関する方針
- ・ 連結株主資本等変動計算書
- ・ 株主資本等変動計算書
- ・ 連結注記表及び個別注記表

# 事業報告

(2022年4月1日から  
2023年3月31日まで)

## 1. 企業集団の現況

### (1) 当連結会計年度の事業の状況

#### ① 事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、2022年3月にまん延防止等重点措置の全面解除により行動制限が緩和され、その後も感染者数の拡大と減少を繰り返しながらも経済活動は徐々に再開しつつあり、感染症法上の措置の緩和の見通しもあることから正常化へ向かっております。しかしながら、国際情勢の緊迫や世界的な資源価格の高騰、急激な為替変動を背景に、食料品やエネルギーを中心に物価の上昇が続いております。

介護業界におきましても、消耗品価格や光熱費等の高騰に加え、依然として人材を適切に確保することは非常に難しく、人件費及び採用コストの上昇が続いており、介護人材の採用と定着が大きな課題となっております。

このような状況の下、当社グループは「介護からエンゼルケアまで」の一貫したサービスを提供するための基盤強化を図り、各サービスの品質向上に繋がる投資を行うとともに、経費や業務の見直し、DXの推進による本社スリム化等のコスト削減を両輪で進めてまいりました。

消耗品価格や光熱費等燃料価格の高騰に伴う費用の上昇を、購買コストの見直しや内製化による外注費削減等で抑制するほか、DXの推進による事務効率の改善を進め労務費の圧縮に努めました。一方、サービス提供に関わる従業員の給与水準の引き上げや労働環境の改善に取り組み、従業員と株主への利益の還元と、成長・拡大への投資を継続しております。また、サステナブルの取り組みの一つとして、介護施設の新設やリノベーションにおいて壁材、床材にリサイクル品、廃番品を使用する等、環境に配慮した施設作りを行っております。

在宅介護サービス事業において、強固なドミナントエリア形成のため、2022年4月、東京都江東区に「デイサービスセンター亀戸」「訪問入浴亀戸」を開設いたしました。8月には「訪問看護クリア」と「訪問看護クリア立花」を統合のうえ「訪問看護亀戸」に名称変更しました。さらに、「居宅支援亀戸」を同事業所に移転し、東京都城東エリアのドミナント強化に取り組みました。

シニア向け総合サービス事業において、エンゼルケアサービスが九州地方へ初進出し、

2022年11月、福岡県福岡市に「エンゼルケア福岡」を開設いたしました。

なお、国内既存事業所数は、通所介護1事業所、訪問入浴1事業所、エンゼルケア1事業所を開設、訪問看護2事業所を1事業所に統合、通所介護1事業所を閉鎖し、合計107事業所となりました。

海外事業におきましては、中国上海市の「上海福原護理服務有限公司」のエンゼルケア事業において、ロックダウン解除以降、徐々に受注件数が回復しつつあります。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は9,237百万円（前年同期比3.0%増）、営業利益は431百万円（前年同期比40.8%増）、経常利益は475百万円（前年同期比45.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は323百万円（前年同期比68.5%増）となりました。

事業部門別の状況は以下のとおりであります。

| 事業部門          | 前連結会計年度<br>(自 2021年4月1日<br>至 2022年3月31日) |        | 当連結会計年度<br>(自 2022年4月1日<br>至 2023年3月31日) |        | 増減      |        |
|---------------|------------------------------------------|--------|------------------------------------------|--------|---------|--------|
|               | 売上高(千円)                                  | 構成比(%) | 売上高(千円)                                  | 構成比(%) | 金額(千円)  | 増減率(%) |
| 在宅介護サービス事業    | 6,561,926                                | 73.2   | 6,680,681                                | 72.3   | 118,754 | 1.8    |
| シニア向け総合サービス事業 | 2,403,825                                | 26.8   | 2,556,498                                | 27.7   | 152,672 | 6.4    |
| 合計            | 8,965,751                                | 100.0  | 9,237,179                                | 100.0  | 271,427 | 3.0    |

② 設備投資の状況

当連結会計年度の設備投資の総額は134百万円で、主なものは事業用建物設備48百万円、事業用車両77百万円であります。

③ 資金調達の状況

当連結会計年度は、自己資金により所要資金を賄いましたので、特別な資金調達は行っておりません。

④ 事業の譲渡、吸収分割または新設分割の状況

該当事項はございません。

⑤ 他の会社の事業の譲受けの状況

該当事項はございません。

⑥ 吸収合併または吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

該当事項はございません。

⑦ 他の会社の株式その他の持分または新株予約権等の取得もしくは処分の状況

該当事項はございません。

## (2) 財産及び損益の状況

### ① 企業集団の財産及び損益の状況

| 区 分                  | 第 29 期<br>(2020年3月期) | 第 30 期<br>(2021年3月期) | 第 31 期<br>(2022年3月期) | 第 32 期<br>(2023年3月期)<br>(当連結会計年度) |
|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|-----------------------------------|
| 売上高 (千円)             | 9,055,582            | 8,686,688            | 8,965,751            | 9,237,179                         |
| 経常利益 (千円)            | 124,655              | 319,539              | 327,327              | 475,633                           |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 (千円) | 242,206              | 190,776              | 192,169              | 323,778                           |
| 1株当たり当期純利益 (円)       | 63.85                | 50.29                | 50.66                | 85.36                             |
| 総資産 (千円)             | 3,213,298            | 3,220,554            | 3,239,733            | 3,510,537                         |
| 純資産 (千円)             | 1,696,524            | 1,857,126            | 2,018,108            | 2,316,192                         |

(注) 第31期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、第31期以降の財産及び損益の状況については当該会計基準を適用した後の数値を記載しております。

### ② 当社の財産及び損益の状況

| 区 分            | 第 29 期<br>(2020年3月期) | 第 30 期<br>(2021年3月期) | 第 31 期<br>(2022年3月期) | 第 32 期<br>(2023年3月期)<br>(当事業年度) |
|----------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------------------|
| 売上高 (千円)       | 8,904,770            | 8,569,485            | 8,884,452            | 9,164,321                       |
| 経常利益 (千円)      | 185,522              | 358,299              | 349,907              | 509,015                         |
| 当期純利益 (千円)     | 259,284              | 182,597              | 184,404              | 357,436                         |
| 1株当たり当期純利益 (円) | 68.35                | 48.14                | 48.61                | 94.23                           |
| 総資産 (千円)       | 3,208,026            | 3,228,064            | 3,239,265            | 3,531,372                       |
| 純資産 (千円)       | 1,713,321            | 1,869,323            | 2,021,451            | 2,340,955                       |

## (3) 重要な親会社及び子会社の状況

### ① 親会社の状況

該当事項はございません。

### ② 重要な子会社の状況

| 会 社 名                    | 資 本 金         | 出 資 比 率 | 主 要 な 事 業 内 容                        |
|--------------------------|---------------|---------|--------------------------------------|
| 上海福原護理服務有限公司             | 1,365,000 USD | 100%    | 中華人民共和国における介護事業、<br>介護関連事業及びエンゼルケア事業 |
| 株式会社ケアサービス<br>ヒューマンキャピタル | 30,000千円      | 100%    | 人材紹介、人材派遣及び人事業務<br>代行業               |

(注) 特定完全子会社には該当いたしません。

#### (4) 対処すべき課題

当社グループが所属する国内の介護サービス産業は高齢化がさらに進み、今後も拡大傾向が続くと予想されます。

このような経営環境に対応するために、当社グループの強みである東京23区を中心としたドミナント戦略の推進により生み出される、各サービス間のシナジー効果を十分に活用してまいります。人口密度が高く、移動効率性の良い東京23区は、介護報酬において全国で最も高い地域区分単価が適用されており、当社グループでは今後も引き続き東京23区を中心としたドミナントエリアでの拠点の展開を継続してまいります。しかしながら、新規出店においては、今後の介護保険法改正の動向に加えて、地域の顧客データやテナント賃料、建設コストなどを慎重に見極めて進めてまいります。

また、国内のあらゆる産業において、従事する人材の採用が年々難しくなっており、介護業界においても、サービスを提供するために必要な有資格者をはじめとした介護スタッフの確保と定着は、引き続き大きな経営課題となっております。当社グループでは、人材事業子会社である「株式会社ケアサービスヒューマンキャピタル」を通じて、介護業界全体の課題である介護人材の採用に向けて、当社グループ全体の採用力の向上を進めております。加えて、優秀な従業員の育成・定着のために職能や経験に応じたキャリアパスや、各種手当を拡充するほか、労働市場の変化にも適切に順応を図っております。また、2019年10月より特定処遇改善加算の取得を推進し、事業所従業員に手当を拡充することで、経験を持った優れた人材が引き続き当社グループで活躍できる環境を整備しております。

新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症拡大下での当社の基本方針としまして、当社グループが提供する在宅介護サービス事業、シニア向け総合サービス事業は、公共性の高いサービスであるため、行政機関と連携のうえ、可能な限りサービスの提供を維持、継続してまいります。ただし、お客様やそのご家族、従業員と家族の安全確保を第一に努め、行政や保健所等による要請、指示に従い、適宜各サービスの休止、規模の縮小、時間変更、代替サービスへの振替等の対応を講じてまいります。

また、中国では上海市に設立した関係会社を通じて、現在、日本式の在宅介護サービスとエンゼルケアサービスを展開しております。引き続き、経済の発展とともに高齢化の進行が予想される中国において、日本と同様のサービス品質を提供していくため、当社グループの企業理念である「お客様一人ひとりの尊厳に共感したサービスを提供する」を理解・実践できる現地スタッフの採用と人材育成を重要視し、体制の構築を図ってまいります。

今後、さらに高齢化が進行する中で、当社グループの「介護からエンゼルケアまで」の一貫したサービスを提供するための基盤構築を引き続き推し進めてまいります。

株主や投資家の皆様との対話や、IR・広報活動の充実、内部統制の整備を通じて、社会からさらに厚い信頼を得ることができるよう努めてまいります。

### (5) 主要な事業内容 (2023年3月31日現在)

| 部 門           | 主 要 サ ー ビ ス                                                                                                                          |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 在宅介護サービス事業    | 通所介護サービス、認知症対応型通所介護サービス、訪問入浴サービス、訪問介護サービス、居宅介護支援サービス、福祉用具貸与サービス、特定福祉用具販売サービス、訪問看護サービス、配食サービス、小規模多機能型居宅介護サービス及びこれらの介護予防サービスを提供しております。 |
| シニア向け総合サービス事業 | 湯灌サービス、CDCサービス、グリーンサービス、シニア向け施設紹介サービスを提供しております。                                                                                      |

### (6) 主要な事業所 (2023年3月31日現在)

| 区 分        | 所 在 地                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 本 社        | 事務所 (東京都大田区)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 在宅介護サービス事業 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○デイサービス<br/>(東京都：大田区9、杉並区4、世田谷区4、板橋区3、足立区4、品川区2、目黒区1、葛飾区1、北区1、練馬区3、江東区2、墨田区1、荒川区1、豊島区1、江戸川区2、西東京市1、三鷹市1、武蔵野市1、調布市1)</li> <li>○認知症対応型デイサービス<br/>(東京都：大田区2、杉並区1)</li> <li>○訪問入浴<br/>(東京都：大田区2、杉並区2、世田谷区1、品川区1、豊島区1、板橋区1、練馬区1、足立区1、北区1、江東区1)<br/>(神奈川県：横浜市港北区1、横浜市南区1)<br/>(埼玉県：川口市1)</li> <li>○訪問介護<br/>(東京都：大田区1、江東区1)</li> <li>○居宅介護支援<br/>(東京都：大田区2、板橋区2、世田谷区3、杉並区2、足立区1、江東区2)</li> <li>○福祉用具貸与・特定福祉用具販売<br/>(東京都：大田区1、杉並区1)</li> <li>○訪問看護<br/>(東京都：大田区1、江東区1)</li> <li>○小規模多機能型居宅介護<br/>(東京都：大田区1)</li> <li>○配食サービス<br/>(東京都：大田区1)</li> </ul> |

|               |                                                                                                                                                                                          |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| シニア向け総合サービス事業 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○湯灌サービス<br/>(山形県1、福島県1、新潟県3、茨城県1、東京都3、神奈川県4、埼玉県2、千葉県4、静岡県1、愛知県1、福岡県1)</li> <li>○CDCサービス<br/>(東京都2、神奈川県1)</li> <li>○グリーンサービス<br/>(東京都1)</li> </ul> |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## (7) 従業員の状況 (2023年3月31日現在)

### ① 企業集団の従業員の状況

| 従業員数   | 前連結会計年度末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|--------|-------------|-------|--------|
| 1,039名 | 25名増        | 40.5歳 | 6.7年   |

### ② 当社の従業員の状況

| 従業員数   | 前事業年度末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|--------|-----------|-------|--------|
| 1,024名 | 26名増      | 40.6歳 | 6.8年   |

(注) 上記従業員のほか、452名の臨時従業員が在籍しております。

## (8) 主要な借入先の状況 (2023年3月31日現在)

| 借入先       | 借入額   |
|-----------|-------|
| 株式会社みずほ銀行 | 12百万円 |

## (9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はございません。

## 2. 株式の状況 (2023年3月31日現在)

- (1) 発行可能株式総数 16,800,000株
- (2) 発行済株式の総数 4,200,000株 (自己株式406,761株を含む)
- (3) 株主数 2,439名

#### (4) 大株主(上位10名)

| 株主名                    | 持株数(株)    | 持株比率(%) |
|------------------------|-----------|---------|
| 有限会社友愛                 | 1,662,800 | 43.83   |
| 福原俊晴                   | 542,200   | 14.29   |
| ケアサービス従業員持株会           | 148,300   | 3.90    |
| MSIP CLIENT SECURITIES | 102,500   | 2.70    |
| 東京海上日動火災保険株式会社         | 96,000    | 2.53    |
| 楠田卓                    | 45,000    | 1.18    |
| JPモルガン証券株式会社           | 34,100    | 0.89    |
| 宮こずえ                   | 25,100    | 0.66    |
| ケアサービス役員持株会            | 24,400    | 0.64    |
| 信崎哲郎                   | 23,600    | 0.62    |

- (注) 1. 自己株式(406,761株)は上記大株主からは除いております。  
 2. 持株比率は、自己株式を控除し、小数点以下第3位を切り捨てて算出しております。

### 3. 新株予約権等の状況

該当事項はございません。

### 4. 会社役員の状況

#### (1) 取締役及び監査役の状況(2023年3月31日現在)

| 会社における地位    | 氏名   | 担当及び重要な兼職の状況                                     |
|-------------|------|--------------------------------------------------|
| 代表取締役会長     | 福原敏雄 |                                                  |
| 代表取締役社長     | 福原俊晴 | 上海福原護理服務有限公司 董事長<br>株式会社ケアサービスヒューマンキャピタル 代表取締役社長 |
| 常務取締役常務執行役員 | 富澤政信 | シニア向け総合サービス事業本部 本部長                              |
| 常務取締役常務執行役員 | 三浦裕二 | 在宅介護事業本部 本部長                                     |
| 取締役執行役員     | 木高毅史 | 管理本部 本部長                                         |
| 取締役         | 藤好優臣 | 藤好公認会計士事務所 代表                                    |
| 取締役         | 森田直行 | 株式会社NTMC 代表取締役社長                                 |

|       |      |                                                              |
|-------|------|--------------------------------------------------------------|
| 取締役   | 園部洋士 | 至高法律事務所 代表弁護士<br>株式会社CLホールディングス 社外取締役<br>東京鐵鋼株式会社 社外取締役監査等委員 |
| 常勤監査役 | 江口尚登 |                                                              |
| 監査役   | 福森久美 | 公認会計士福森久美事務所 代表<br>日本ラッド株式会社 社外監査役<br>ブロードマインド株式会社 社外取締役     |
| 監査役   | 尾堂隆久 | 経営労務NEXT 代表・社会保険労務士                                          |

- (注) 1. 取締役 藤好優臣、取締役 森田直行及び取締役 園部洋士の3氏は、社外取締役であります。
2. 監査役 福森久美及び監査役 尾堂隆久の両氏は、社外監査役であります。
3. 監査役 福森久美氏は、長年にわたり公認会計士、税理士としての経験を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
4. 当社は、取締役 藤好優臣、取締役 森田直行、取締役 園部洋士、監査役 福森久美及び監査役 尾堂隆久の5氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
5. 監査役 園部洋士氏は2022年6月23日開催の第31回定時株主総会終結の時をもって監査役を辞任し、取締役に選任され就任いたしました。
6. 2022年6月23日開催の第31回定時株主総会において、社外監査役 尾堂隆久氏が選任され就任いたしました。
7. 社外役員の独立性に関する基準  
当社は招聘する社外取締役及び社外監査役の独立性については、金融商品取引所が定める独立性の基準を満たすことを前提としております。
8. 当社は2022年6月23日開催の取締役会において執行役員を選任及び役付役員の選定を行いそれぞれ就任いたしました。
9. 代表取締役社長 福原俊晴氏は2022年6月23日に株式会社ケアサービスヒューマンキャピタルの代表取締役社長に就任いたしました。

## (2) 責任限定契約の内容の概要

当社は、社外取締役 藤好優臣、社外取締役 森田直行、社外取締役 園部洋士、監査役 江口尚登、社外監査役 福森久美及び社外監査役 尾堂隆久の6氏との間で、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、同法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。

## (3) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

### ① 被保険者の範囲

当社の取締役、監査役、執行役員

### ② 保険契約の内容の概要

当社は会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が負担することになる会社の役員としての業務につき行った行為に起

因して、損害賠償請求を受けることによって、被保険者が被る損害を当該保険契約により填補することとしており、保険料は全額当社が負担しております。

#### (4) 取締役及び監査役の報酬等の総額

##### ① 取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針に関する事項

当社は、取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針は、任意の指名・報酬委員会において、担当職務、各期の業績、貢献度、同業他社や社会情勢等を総合的に勘案して作成することとしており、取締役会では基本的にその答申を尊重しております。

##### ② 取締役及び監査役の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

当社取締役の金銭報酬の額は、2002年6月27日開催の第11回定時株主総会において、取締役は150百万円以内と決議されております。当該定時株主総会終結時点の取締役の員数は4名（うち社外取締役は0名）です。監査役の金銭報酬の額は、2002年6月27日開催の第11回定時株主総会において50百万円以内と決議しております。当該定時株主総会終結時点の監査役の員数は2名（うち社外監査役は1名）です。

##### ③ 取締役の個人別の報酬等の内容の決定に係る委任に関する事項

各取締役の報酬については、取締役会決議に基づき設置した任意の指名・報酬委員会に諮問し、その答申内容を尊重し代表取締役社長 福原俊晴にその具体的内容の決定を委任するものとしております。

代表取締役社長に委任した理由は、当社グループを取り巻く環境、当社グループの経営状況等を当社グループにおいて最も熟知し、総合的に役員の報酬額を決定できると判断したためであり、独立社外役員も構成員とする任意の指名・報酬委員会の審議を経て決定されることから、恣意的な決定はなされず権限が適切に行使されるための措置が講じられております。なお、当社の取締役の報酬は固定報酬のみで構成されております。

また、監査役の報酬は、株主総会で決議された報酬限度額の範囲内において、常勤、非常勤の別、業務分担の状況を考慮して、監査役の協議により決定しております。

##### ④ 取締役及び監査役の報酬等の総額等

| 役員区分             | 報酬等の総額<br>(百万円) | 報酬等の種類別の総額 (百万円) |        |       | 対象となる役員<br>の員数<br>(人) |
|------------------|-----------------|------------------|--------|-------|-----------------------|
|                  |                 | 固定報酬             | 業績連動報酬 | 退職慰労金 |                       |
| 取締役<br>(うち社外取締役) | 92<br>9         | 92<br>9          | —      | —     | 9<br>(3)              |
| 監査役<br>(うち社外監査役) | 14<br>6         | 14<br>6          | —      | —     | 4<br>(3)              |

(注) 当事業年度末の取締役の員数は8名、監査役の員数は3名であります。

上記取締役及び監査役の員数と相違しておりますのは、2022年6月23日をもって退任した渡辺桂氏及び2022年6月23日をもって監査役を辞任し、取締役就任した園部洋士氏を含んでいるためであります。

- ⑤ 業績連動報酬に関する事項  
該当事項はございません。
- ⑥ 非金銭報酬の内容  
該当事項はございません。

## (5) 社外役員に関する事項

取締役 藤好優臣氏

- ① 他の法人等との兼職状況及び当社と当該法人等との関係  
取締役 藤好優臣氏は、藤好公認会計士事務所の代表を兼務しております。藤好公認会計士事務所と当社は、取引その他特別な関係はございません。
- ② 当期における主な活動状況  
第32期に臨時開催を含め12回開催した取締役会のうち12回全てに出席し、1回開催した任意の指名・報酬委員会に出席し、主に会計士・税理士として培ってきた豊富な経験と幅広い見識に基づいて、意見表明を適宜行うなど、妥当かつ適正な取締役会の意思決定に寄与しております。

取締役 森田直行氏

- ① 他の法人等との兼職状況及び当社と当該法人等との関係  
取締役 森田直行氏は、株式会社NTMCの代表取締役社長を兼務しております。株式会社NTMCと当社は、取引その他特別な関係はございません。
- ② 当期における主な活動状況  
第32期に臨時開催を含め12回開催した取締役会のうち12回全てに出席し、1回開催した任意の指名・報酬委員会に出席し、企業経営者としての豊富な経験と幅広い見識に基づいて意見表明を適宜行うなど、妥当かつ適正な取締役会の意思決定に寄与しております。

取締役 園部洋士氏

- ① 他の法人等との兼職状況及び当社と当該法人等との関係  
取締役 園部洋士氏は、至高法律事務所の代表弁護士の他に株式会社CLホールディングスの社外取締役、東京鐵鋼株式会社の社外取締役監査等委員を兼務しております。  
至高法律事務所、株式会社CLホールディングス、東京鐵鋼株式会社と当社は、取引そ

の他特別な関係はございません。

② 当期における主な活動状況

第32期に臨時開催を含め12回開催した取締役会のうち12回全てに出席し、1回開催した任意の指名・報酬委員会に出席し、主に弁護士としての豊富な経験と専門的知見と幅広い見識に基づいて、意見表明を適宜行うなど、妥当かつ適正な取締役会の意思決定に寄与しております。

監査役 福森久美氏

① 他の法人等との兼職状況及び当社と当該法人等との関係

監査役 福森久美氏は、公認会計士福森久美事務所の代表の他に日本ラッド株式会社の社外監査役、ブロードマインド株式会社の社外取締役を兼務しております。

公認会計士福森久美事務所、日本ラッド株式会社、ブロードマインド株式会社と当社は、取引その他特別な関係はございません。

② 当期における主な活動状況

第32期に臨時開催を含め12回開催した取締役会のうち12回全てに出席し、臨時も含めた監査役会は13回全てに出席し、1回開催した任意の指名・報酬委員会に出席し、主に会計士・税理士としての専門的知見を有するばかりでなく、事業法人において経営に関与された経験もあり、経営に有益な助言・提言を行い、また適切な監査の実施、監査意見の形成に有益な発言を適宜行っております。

監査役 尾堂隆久氏

① 他の法人等との兼職状況及び当社と当該法人等との関係

監査役 尾堂隆久氏は、経営労務NEXTの代表・社会保険労務士を兼務しております。経営労務NEXTと当社は、取引その他特別な関係はございません。

② 当期における主な活動状況

第32期に臨時開催を含め12回開催した取締役会のうち10回（任期中全て）に出席し、臨時も含めた監査役会は9回（任期中全て）に出席し、主に人事・法務・コンプライアンス等の分野における専門的知見を有するほかに監査役経験もあり、経営に有益な助言・提言を行い、また適切な監査の実施、監査意見の形成に有益な発言を適宜行っております。

(注) 社外監査役 尾堂隆久氏につきましては、2022年6月23日就任後の状況を記載しております。

## 5. 会計監査人の状況

(1) 名称 PwC京都監査法人

### (2) 報酬等の額

|                                     | 報酬等の額 (百万円) |
|-------------------------------------|-------------|
| 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額                 | 26          |
| 当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 26          |

- (注) 1. 会計監査人の報酬等について監査役会は、監査体制及び監査項目を検討した結果、当社の規模、複雑性、リスクに照らし、監査報酬額は妥当な額であると同意の判断をいたしました。
2. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

### (3) 非監査業務の内容

該当事項はございません。

### (4) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

当社は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に該当すると認められるとき、または当社にとってより適切な監査体制の整備が必要と判断されるときには、会計監査人を解任または不再任とするための法令に定められた手続きをとる方針であります。

### (5) 責任限定契約の内容の概要

該当事項はございません。

## 6. 業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況の概要

### (1) 業務の適正を確保するための体制

取締役の職務の執行が、法令及び定款に適合することを確保するための体制、その他の会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は、以下のとおりであります。

- ① 取締役及び従業員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制  
取締役及び従業員が職務執行において遵守すべき事項を定める「企業理念」、「行動指

針」及びそれに基づく日々の行動目標を記した「ケアサービスフィロソフィ」を制定し、周知徹底を図っております。また、「内部通報に関する規程」に基づきコンプライアンスに関する相談、通報を受け付ける内部通報制度を設置し運用しております。

内部監査部門は業務執行の状況を監査し、改善指導を行うとともに、代表取締役社長へ報告しております。また、毎年活動状況を取締役に報告しております。その他に必要な応じて管掌取締役及び監査役に報告を行います。さらに子会社の内部監査を実施し、その結果を代表取締役社長へ報告し、必要に応じて管掌取締役及び監査役に報告しております。

## ② 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役会をはじめとする重要な会議の意思決定に係る記録及び各取締役が「職務権限規程」に基づいて決裁した文書、その他取締役の職務の執行に係る情報を適正に記録し、法令及び「文書管理規程」等に従い適切に保管及び管理を行っております。

## ③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社全体のリスク管理を統括する組織として、「リスク管理規程」に基づき、各部門の所管業務に付随する様々なリスクの管理は主管責任部署が行い、危機発生時に迅速かつ適切な対応を図る体制を構築しております。

財務報告の信頼性に係るリスクの管理については、内部監査部門が各部門をモニタリングし、代表取締役及び監査役会へ報告しております。

## ④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役会は月に1回定時に開催するほか、必要に応じて適宜開催し、重要事項については事前に各種会議体で審議した上で、決議機関に上程することで職務執行の効率性を確保しております。取締役会の決定に基づく業務執行については「職務権限規程」に従い、所属長がその責任範囲と権限において執行しております。

## ⑤ 当社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社及び子会社からなる企業集団は、「ケアサービスフィロソフィ」を共有し、グループ一体となった体制を構築し、監査役及び監査役会は、当社グループの業務全般にわたる内部統制の有効性を検証しております。また内部監査部門は、当社グループ各社への内部監査を実施し、内部統制の整備・運用状況を検証しております。

**⑥ 監査役がその職務を補助すべき従業員を置くことを求めた場合における当該従業員に関する体制**

当社は、監査役会が必要とした場合、監査役を補助する従業員を置くものとし、その人選については取締役会と協議するものとします。また、監査役は必要に応じて内部監査部門に調査を依頼することができます。

**⑦ 監査役職務を補助すべき従業員の取締役からの独立性に関する事項**

監査役職務を補助すべき従業員の任命、異動、評価及び懲戒については、監査役会の同意を必要としております。

**⑧ 取締役及び従業員が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制**

監査役は、取締役会その他重要な意思決定の過程及び執行状況を把握するため重要な会議に出席し、必要に応じて取締役及び従業員に説明を求めることができます。また、代表取締役と適宜意見交換を行い、意思の疎通を図るほか、適切な報告体制を確保しております。

**⑨ その他監査役監査が実効的に行われることを確保するための体制**

内部監査部門は、監査の方針・計画等について監査役と事前協議を行い、また監査に関する情報交換を行う等、監査役と緊密に連携しております。

**⑩ 財務報告の信頼性その他適正な内部統制を確保するための体制**

当社は、財務報告の信頼性の確保及び「内部統制報告書」の有効かつ適切な開示のために、財務報告に係る内部統制の継続的な整備・運用及び評価を行い、不備が発見された場合は是正処置を講じております。また、「内部統制の4つの目的」として挙げられる他の3つの目的（業務の有効性及び効率性、法令等の遵守、資産の保全）等について、業務執行側として取り組むために「内部統制」を整備・運用し、グループガバナンス体制の強化を推進しております。

**⑪ 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方とその整備状況**

当社は、「反社会的勢力等対応規程」に基づき、社会秩序や市民生活の安全を脅かす反社会的勢力及び団体とは一切関係を持たず、さらに反社会的勢力及び団体からの要求を断

固拒否し、これらと関係のある企業・団体・個人とは、いかなる取引も行わない方針を堅持しております。

代表取締役が命ずる者は、警察及び関連団体等との連携に努めており、引き続き反社会的勢力排除のための社内体制の整備・強化を進めております。

## (2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

取締役の職務の執行が、法令及び定款に適合することを確保するための体制、その他の会社の業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は、以下のとおりであります。

### ① 取締役及び従業員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

取締役及び従業員が、現状の法令、社会環境、当社の目指すべき方向性に沿った行動が遵守できるよう、「企業理念」、「行動指針」及びそれに基づく日々の行動目標を記した「ケアサービスフィロソフィ」の部分修正を適宜行っております。また、「内部通報に関する規程」に基づき、内部監査部門を窓口とした、コンプライアンスに関する相談、通報制度の運用を行っております。

内部監査部門は作成した内部監査計画書に基づき、その結果を代表取締役社長へ報告しております。また、毎年活動状況を取締役会に報告しております。その他に必要に応じて管掌取締役及び監査役会に報告を行っております。

### ② 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役会議事録や稟議書類等をはじめとする取締役執行上の各種情報について、「文書管理規程」に従い適切に保管及び管理を行っております。

### ③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

内部監査部門による内部監査及び会計監査人による適時の監査により、法令、定款違反、その他の事由に基づき損失の危険のある業務執行や事象が発見された場合には直ちに、代表取締役に報告し適切な危機管理を行っております。

### ④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

「取締役会規程」に基づき定時、または臨時に取締役会を開催しております。また、効率的な職務の執行が行えるよう、取締役間の情報共有を加速するために毎週数回の会議を開催しております。

業績のタイムリーな把握については、デイリーレポートを通じて迅速に報告されております。

**⑤ 当社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制**

適宜、取締役会等で、担当取締役、経理総務部長に報告を求め、子会社の運用状況の確認を行っております。

**⑥ 監査役がその職務を補助すべき従業員を置くことを求めた場合における当該従業員に関する体制**

該当事項はございません。

**⑦ 監査役職務を補助すべき従業員の取締役からの独立性に関する事項**

該当事項はございません。

**⑧ 取締役及び従業員が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制**

監査役の情報収集の体制として、取締役会、他社内での重要な会議へ出席し、代表取締役との意見交換の場を確保すること等に加え、取締役が決裁した社内稟議を監査役が閲覧することで監査役による業務執行状況の確認と監査の実効性に努めております。また、適宜役員へのインタビューを行い取締役の業務執行状況の確認を間接的に行っております。

**⑨ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制**

内部監査部門は、監査の方針・計画、内部統制システムの整備・運用状況に関する意見交換を行う等、監査役と緊密に連携しております。また、監査役は会計監査人と定期的な会合を開催し情報交換を行っております。

**⑩ 財務報告の信頼性その他適正な内部統制を確保するための体制**

全社経営方針と内部統制の4つの目的である「業務の有効性と効率性」、「財務報告の信頼性」、「事業活動に関わる法令等の遵守」、「資産の保全」に基づき、財務報告に係る内部統制の継続的な整備・運用及び評価を行っており、不備が発見された場合は是正処置を講じてグループガバナンス体制の強化を推進しております。

#### ⑪ 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方とその整備状況

「反社会的勢力等対応規程」を制定し、反社会的勢力排除に向けた体制の強化を図っております。既存取引先と過去に締結した契約内容を見直し「反社会的勢力」に関する事項についての条文に不足がある場合は、新たに契約書を締結し直すこと等も行っております。また、新規の取引についても、契約時に厳正なチェックを行い、反社会的勢力と取引を行わないこととしております。

### 7. 会社の支配に関する基本方針

当社では、会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針については、特に定めておりません。

### 8. 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、企業価値の継続的向上を図るとともに、株主に対する利益還元を経営上の重要な課題として位置付けております。剰余金の配当等の決定につきましては、中長期的な事業計画に基づき、設備投資及び再投資のための内部資金を確保しつつ、株主に対する安定的な配当を実施することを基本方針としております。

## 連結貸借対照表

(2023年3月31日現在)

(単位：千円)

| 資産の部            |                  | 負債の部               |                  |
|-----------------|------------------|--------------------|------------------|
| 科目              | 金額               | 科目                 | 金額               |
| <b>流動資産</b>     | <b>2,705,114</b> | <b>流動負債</b>        | <b>906,804</b>   |
| 現金及び預金          | 1,197,728        | 買掛金                | 132,703          |
| 売掛金             | 1,411,554        | 一年内返済予定の長期借入金      | 12,530           |
| その他の            | 96,178           | リース債務              | 53,217           |
| 貸倒引当金           | △347             | 未払金                | 22,766           |
| <b>固定資産</b>     | <b>805,423</b>   | 未払費用               | 285,764          |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>337,737</b>   | 未払法人税等             | 174,892          |
| 建物              | 163,113          | 賞与引当金              | 154,241          |
| 工具、器具及び備品       | 23,831           | その他の               | 70,687           |
| リース資産           | 101,075          | <b>固定負債</b>        | <b>287,540</b>   |
| その他の            | 49,716           | リース債務              | 84,246           |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>63,206</b>    | 退職給付に係る負債          | 203,233          |
| のれん             | 22,099           | その他の               | 60               |
| リース資産           | 22,333           | <b>負債合計</b>        | <b>1,194,344</b> |
| その他の            | 18,773           | <b>純資産の部</b>       |                  |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>404,479</b>   | <b>株主資本</b>        | <b>2,314,005</b> |
| 敷金及び保証金         | 207,852          | 資本金                | 205,125          |
| 繰延税金資産          | 164,554          | 資本剰余金              | 138,075          |
| その他の            | 32,260           | 利益剰余金              | 2,119,036        |
| 貸倒引当金           | △187             | 自己株式               | △148,231         |
| <b>資産合計</b>     | <b>3,510,537</b> | <b>その他の包括利益累計額</b> | <b>2,187</b>     |
|                 |                  | 為替換算調整勘定           | 2,187            |
|                 |                  | <b>純資産合計</b>       | <b>2,316,192</b> |
|                 |                  | <b>負債純資産合計</b>     | <b>3,510,537</b> |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 連結損益計算書

(2022年4月1日から  
2023年3月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目             | 金 額     |           |
|-----------------|---------|-----------|
| 売上高             |         | 9,237,179 |
| 売上原価            |         | 7,982,962 |
| 売上総利益           |         | 1,254,216 |
| 販売費及び一般管理費      |         | 823,102   |
| 営業利益            |         | 431,114   |
| 営業外収益           |         |           |
| 受取利息            | 124     |           |
| 受取保険金           | 15,382  |           |
| 助成金収入           | 12,336  |           |
| 補助金の収入          | 28,938  |           |
| その他             | 3,385   | 60,167    |
| 営業外費用           |         |           |
| 支払利息            | 3,545   |           |
| 為替差損            | 10,060  |           |
| その他             | 2,042   | 15,648    |
| 経常利益            |         | 475,633   |
| 特別利益            |         |           |
| 受取和解金           | 61,428  | 61,428    |
| 特別損失            |         |           |
| 減損損失            | 31,862  |           |
| 固定資産除却損         | 1,116   | 32,979    |
| 税金等調整前当期純利益     |         | 504,083   |
| 法人税、住民税及び事業税    | 208,036 |           |
| 法人税等調整額         | △27,731 | 180,304   |
| 当期純利益           |         | 323,778   |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 |         | 323,778   |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結株主資本等変動計算書

(2022年4月1日から  
2023年3月31日まで)

(単位：千円)

|                               | 株 主 資 本 |         |           |          |           |
|-------------------------------|---------|---------|-----------|----------|-----------|
|                               | 資 本 金   | 資本剰余金   | 利益剰余金     | 自己株式     | 株主資本合計    |
| 当 期 首 残 高                     | 205,125 | 138,075 | 1,833,190 | △148,231 | 2,028,158 |
| 当 期 変 動 額                     |         |         |           |          |           |
| 剰 余 金 の 配 当                   |         |         | △37,932   |          | △37,932   |
| 親会社株主に帰属する<br>当 期 純 利 益       |         |         | 323,778   |          | 323,778   |
| 株主資本以外の項目の<br>当 期 変 動 額 (純 額) |         |         |           |          |           |
| 当 期 変 動 額 合 計                 | －       | －       | 285,846   | －        | 285,846   |
| 当 期 末 残 高                     | 205,125 | 138,075 | 2,119,036 | △148,231 | 2,314,005 |

|                               | その他の包括利益累計額  |                       | 純資産合計     |
|-------------------------------|--------------|-----------------------|-----------|
|                               | 為替換算<br>調整勘定 | その他の包括利益<br>累 計 額 合 計 |           |
| 当 期 首 残 高                     | △10,050      | △10,050               | 2,018,108 |
| 当 期 変 動 額                     |              |                       |           |
| 剰 余 金 の 配 当                   |              |                       | △37,932   |
| 親会社株主に帰属する<br>当 期 純 利 益       |              |                       | 323,778   |
| 株主資本以外の項目の<br>当 期 変 動 額 (純 額) | 12,238       | 12,238                | 12,238    |
| 当 期 変 動 額 合 計                 | 12,238       | 12,238                | 298,084   |
| 当 期 末 残 高                     | 2,187        | 2,187                 | 2,316,192 |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 貸借対照表

(2023年3月31日現在)

(単位：千円)

| 資産の部            |                  | 負債の部           |                  |
|-----------------|------------------|----------------|------------------|
| 科目              | 金額               | 科目             | 金額               |
| <b>流動資産</b>     | <b>2,718,544</b> | <b>流動負債</b>    | <b>902,876</b>   |
| 現金及び預金          | 1,175,121        | 買掛金            | 132,708          |
| 売掛金             | 1,402,789        | 一年内返済予定の長期借入金  | 12,530           |
| その他             | 212,217          | リース債務          | 53,217           |
| 貸倒引当金           | △71,583          | 未払金            | 22,709           |
| <b>固定資産</b>     | <b>812,827</b>   | 未払費用           | 285,083          |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>337,366</b>   | 未払法人税等         | 174,712          |
| 建物              | 163,113          | 賞与引当金          | 152,867          |
| 工具、器具及び備品       | 23,461           | その他の           | 69,046           |
| リース資産           | 101,075          | <b>固定負債</b>    | <b>287,540</b>   |
| その他             | 49,716           | リース債務          | 84,246           |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>62,857</b>    | 退職給付引当金        | 203,233          |
| のれん             | 22,099           | その他            | 60               |
| リース資産           | 22,333           | <b>負債合計</b>    | <b>1,190,416</b> |
| その他             | 18,424           | <b>純資産の部</b>   |                  |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>412,603</b>   | <b>株主資本</b>    | <b>2,340,955</b> |
| 長期貸付金           | 42,509           | 資本金            | 205,125          |
| 敷金及び保証金         | 206,851          | 資本剰余金          | 138,075          |
| 繰延税金資産          | 164,554          | 資本準備金          | 138,075          |
| その他             | 29,750           | <b>利益剰余金</b>   | <b>2,145,987</b> |
| 貸倒引当金           | △31,062          | その他利益剰余金       | 2,145,987        |
| <b>資産合計</b>     | <b>3,531,372</b> | 繰越利益剰余金        | 2,145,987        |
|                 |                  | <b>自己株式</b>    | <b>△148,231</b>  |
|                 |                  | <b>純資産合計</b>   | <b>2,340,955</b> |
|                 |                  | <b>負債純資産合計</b> | <b>3,531,372</b> |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 損益計算書

(2022年4月1日から  
2023年3月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目          | 金 額     |           |
|--------------|---------|-----------|
| 売上高          |         | 9,164,321 |
| 売上原価         |         | 7,924,331 |
| 売上総利益        |         | 1,239,990 |
| 販売費及び一般管理費   |         | 797,563   |
| 営業利益         |         | 442,426   |
| 営業外収益        |         |           |
| 受取手数料        | 2,275   |           |
| 受取利息         | 1,358   |           |
| 受取保険金        | 15,382  |           |
| 助成金収入        | 12,336  |           |
| 補助金収入        | 28,938  |           |
| 為替差益         | 8,607   |           |
| その他          | 1,344   | 70,243    |
| 営業外費用        |         |           |
| 支払利息         | 1,682   |           |
| 事業所閉鎖損       | 1,259   |           |
| その他          | 712     | 3,654     |
| 経常利益         |         | 509,015   |
| 特別利益         |         |           |
| 受取和解金        | 61,428  | 61,428    |
| 特別損失         |         |           |
| 減損損失         | 31,862  |           |
| 固定資産除却損      | 1,116   | 32,979    |
| 税引前当期純利益     |         | 537,465   |
| 法人税、住民税及び事業税 | 207,759 |           |
| 法人税等調整額      | △27,731 | 180,028   |
| 当期純利益        |         | 357,436   |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 株主資本等変動計算書

( 2022 年 4 月 1 日から  
2023 年 3 月 31 日まで )

(単位：千円)

|               | 株 主 資 本 |           |         |           |           |          |                | 純資産合計     |
|---------------|---------|-----------|---------|-----------|-----------|----------|----------------|-----------|
|               | 資 本 金   | 資 本 剰 余 金 |         | 利 益 剰 余 金 |           | 自 己 株 式  | 株 主 資 本<br>合 計 |           |
|               |         | 資本準備金     | 資本剰余金合計 | その他利益剰余金  | 利益剰余金合計   |          |                |           |
|               |         |           |         | 繰越利益剰余金   |           |          |                |           |
| 当 期 首 残 高     | 205,125 | 138,075   | 138,075 | 1,826,483 | 1,826,483 | △148,231 | 2,021,451      | 2,021,451 |
| 当 期 変 動 額     |         |           |         |           |           |          |                |           |
| 剰 余 金 の 配 当   |         |           |         | △37,932   | △37,932   |          | △37,932        | △37,932   |
| 当 期 純 利 益     |         |           |         | 357,436   | 357,436   |          | 357,436        | 357,436   |
| 当 期 変 動 額 合 計 | -       | -         | -       | 319,504   | 319,504   | -        | 319,504        | 319,504   |
| 当 期 末 残 高     | 205,125 | 138,075   | 138,075 | 2,145,987 | 2,145,987 | △148,231 | 2,340,955      | 2,340,955 |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書

## 独立監査人の監査報告書

2023年5月22日

株式会社ケアサービス  
取締役会 御中

### PwC京都監査法人

東京事務所

|             |       |     |     |
|-------------|-------|-----|-----|
| 指 定 社 員     | 公認会計士 | 田 村 | 仁   |
| 業 務 執 行 社 員 |       |     |     |
| 指 定 社 員     | 公認会計士 | 田 口 | 真 樹 |
| 業 務 執 行 社 員 |       |     |     |

#### 監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社ケアサービスの2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ケアサービス及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 連結計算書類に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 会計監査人の監査報告書

## 独立監査人の監査報告書

2023年5月22日

株式会社ケアサービス  
取締役会 御中

PwC京都監査法人

東京事務所

|                |       |      |
|----------------|-------|------|
| 指定社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 田村仁  |
| 指定社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 田口真樹 |

### 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社ケアサービスの2022年4月1日から2023年3月31日までの第32期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

### 計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成

し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業の前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

## 監査役会の監査報告書

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、2022年4月1日から2023年3月31日までの第32期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門、その他の使用人等と意思疎通を図り、また、社外取締役との意見交換を通じて情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施いたしました。
  - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。  
また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
  - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社からなる企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
  - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。更に、会計監査人の評価・選定に係る相当性に関して検証いたしました。  
尚、監査上の主要な検討項目については、会計監査人PwC京都監査法人と協議を行うとともに、その監査の実施状況について報告を受け、必要に応じて説明を受けました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人PwC京都監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人PwC京都監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2023年5月26日

株式会社ケアサービス 監査役会

常勤監査役 江 口 尚 登 ㊟

監 査 役 福 森 久 美 ㊟

監 査 役 尾 堂 隆 久 ㊟

(注) 監査役 福森久美及び監査役 尾堂隆久の両氏は、いずれも会社法第2条第16号及び第335条第3項に定める社外監査役であります。

以 上

## 株主総会参考書類

### 第1号議案 剰余金の処分の件

剰余金の処分につきましては、次のとおりといたしたいと存じます。

#### 期末配当に関する事項

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営上の重要な課題として位置付けており、安定的かつ継続的な配当を実施していくことを基本方針としております。

第32期の期末配当につきましては、上記方針に基づき、株主の皆様への還元強化を図るため、次のとおりといたしたいと存じます。

① 配当財産の種類

金銭

② 株主に対する配当財産の割当に関する事項及びその総額

当社普通株式1株につき金 14円00銭

配当総額 53,105,346円

③ 剰余金の配当が効力を生じる日

2023年6月28日

## 第2号議案 監査役1名選任の件

本株主総会終結の時をもって、監査役 江口尚登氏が辞任されますので、監査役1名の選任をお願いするものであります。なお、日詰祐子氏は江口尚登氏の補欠として選任されますので、その任期は当社定款の定めにより、退任された監査役の任期の満了すべき時までとなります。

また、本議案につきましては、あらかじめ監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は、次のとおりであります。

ひづめ ゆうこ  
**日詰 祐子** (1960年7月28日生)

新任



### ■ 略歴

|         |                                            |          |                                        |
|---------|--------------------------------------------|----------|----------------------------------------|
| 1990年9月 | プライスウォーターハウス<br>コンサルタント株式会社入社              | 2004年7月  | メディア・クルーズ・ソリュ<br>ーション株式会社入社            |
| 1992年3月 | 日本S G I株式会社(現:株<br>式会社日本HP)入社              | 2008年11月 | 税理士法人トーマツ入社                            |
| 2003年8月 | ノベル株式会社(現:マイク<br>ロフォーカスエンタープライ<br>ズ株式会社)入社 | 2012年11月 | コミュニティワン株式会<br>社(現:株式会社東急コミュニ<br>ティ)入社 |
|         |                                            | 2014年11月 | 当社入社 法務担当(現任)                          |

■ 重要な兼職の状況：該当なし

### ■ 監査役候補者とした理由

日詰祐子氏は、事業法人において、主に法務、コンプライアンス等の分野における豊富な経験と知見を有していることから当社グループの実効的な監査に十分な役割を果たすことが期待できると判断し、監査役候補者として選任をお願いするものであります。

■ 監査役候補者と当社の関係： 同氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。

### ※ 1. 監査役との責任限定契約について

当社は、現在、監査役3名との間で会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する責任限定契約を締結しており、日詰祐子氏が選任された場合には、当該契約を締結する予定であります。当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、同法第425条第1項に定める最低責任限度額であります。

### ※ 2. 監査役との役員等賠償責任保険契約の内容の概要について

当社は会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者(監査役)が負担することになる会社役員としての業務につき行った行為に起因して、損害賠償請求を受けることによって、被保険者が被る損害を当該保険契約により填補することとしており、保険料は全額当社が負担しております。監査役候補者は当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。

※ 3. 所有する当社の株式数は2023年3月末日現在のものです。

所有する当社の株式数

- 株

監査役在任年数

- 年

### 【ご参考】本総会終了後の経営体制（予定）について

当社の企業理念及び経営計画等に照らして、取締役会が意思決定及び経営の監督機能を発揮するために必要なスキル（経験・知識・能力等）を特定しました。取締役及び監査役のスキルマトリックスは以下のとおりです。

なお、以下の一覧表は各氏の経験などを踏まえて、より専門性を発揮できる領域を記載しており、有する全ての知見を表すものではありません。

| 氏名                   | スキル | 企業経営 | 業界知見 | 財務会計 | 金融M&A | 人事労務 | 法律・ガバナンス | グローバル | DX・IT |
|----------------------|-----|------|------|------|-------|------|----------|-------|-------|
| 代表取締役会長<br>福原 敏雄     |     | ○    | ○    |      |       |      |          |       |       |
| 代表取締役社長<br>福原 俊晴     |     | ○    | ○    |      | ○     |      |          | ○     |       |
| 常務取締役常務執行役員<br>富澤 政信 |     |      | ○    |      | ○     |      |          | ○     |       |
| 常務取締役常務執行役員<br>三浦 裕二 |     |      | ○    |      |       | ○    | ○        |       |       |
| 取締役執行役員<br>木高 毅史     |     |      |      | ○    | ○     |      |          |       | ○     |
| 社外取締役<br>藤好 優臣       |     | ○    |      | ○    | ○     |      |          |       |       |
| 社外取締役<br>森田 直行       |     | ○    |      | ○    |       |      |          |       | ○     |
| 社外取締役<br>園部 洋士       |     |      |      |      |       | ○    | ○        |       | ○     |
| 常勤監査役<br>日詰 祐子       |     |      |      |      |       |      | ○        | ○     |       |
| 社外監査役<br>福森 久美       |     | ○    |      | ○    |       |      | ○        |       |       |
| 社外監査役<br>尾堂 隆久       |     |      |      |      |       | ○    | ○        |       |       |

以 上

# 株主総会会場ご案内図

会場

東京都港区新橋一丁目12番9号

AP新橋 4階 Dルーム (新橋プレイス)



## 交通のご案内

- JR「新橋駅」銀座口 徒歩1分
- 東京メトロ銀座線「新橋駅」5番出口 すぐ
- 都営浅草線「新橋駅」5番出口 すぐ
- 都営三田線「内幸町駅」A2出口 徒歩4分

※お車でのご来場は、ご遠慮ください。

連 結 注 記 表  
個 別 注 記 表

(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

# 連結注記表

## 1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

### 1. 連結の範囲に関する事項

#### (1) 連結子会社の数及び主要な連結子会社の名称

連結子会社の数 2社

連結子会社の名称 上海福原護理服務有限公司、株式会社ケアサービスヒューマンキャピタル

#### (2) 主要な非連結子会社の名称等

非連結子会社はありません。

### 2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用した非連結子会社及び関連会社はありません。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の上海福原護理服務有限公司の決算日は12月末日であります。

なお、連結計算書類の作成に当たっては連結決算日現在で実施した仮決算に基づく計算書類を使用しております。

### 4. 会計方針に関する事項

#### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### ① 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品

先入先出法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

原材料及び貯蔵品

先入先出法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

#### (2) 重要な固定資産の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産 (リース資産を除く)

主として定率法。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については定額法

主な資産の耐用年数

建物

2～15年

工具、器具及び備品

2～15年

②無形固定資産（リース資産を除く） 自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零（残価保証の取決めがある場合は残価保証額）とする定額法を採用しております。

④長期前払費用 均等償却

(3) 引当金の計上基準

①貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行业務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点は以下のとおりであります。

①在宅介護サービス事業

主に契約で定められた介護保険法の適用を受ける通所介護サービス、訪問入浴サービス、居宅介護支援サービス、訪問看護サービス等の役務を履行義務としております。

これらの履行義務については、顧客との契約に基づき役務を提供する一定期間にわたり充足されると判断し、月締めで収益を認識しております。

②シニア向け総合サービス事業

エンゼルケアサービス、グリーンサービス等の役務を主な履行義務としております。

これらの履行義務については、顧客との契約に基づき役務を提供する一定期間にわたり充足されると判断し、月締めで収益を認識しております。

(5) 会計方針の変更に関する注記

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、当該会計基準適用指針の適用が連結計算書類に与える影響はありません。

(6) その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

①退職給付に係る会計処理の方法

・退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

・数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異及び過去勤務費用については、その発生時に一括費用処理しております。

②外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

③のれんの償却方法及び償却期間

のれんについては、5年間の定額法により償却を行っております。

## 2. 会計上の見積りに関する注記

### 1. 繰延税金資産の回収可能性

(1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

繰延税金資産 164,554千円

(2) 会計上の見積りの内容について計算書類利用者の理解に資するその他の情報

①算出方法

将来事業計画により見積もられた将来の課税所得に基づき、繰延税金資産を計上しております。

②主要な仮定

課税所得の見積りの基礎となる当社の取締役会で承認された翌連結会計年度の主要事業の事業計画における主要な仮定は、デイサービスにおいては稼働率及び拠点数の増加、エンゼルケアサービス及び訪問入浴サービスは契約数です。

③翌連結会計年度の連結計算書類に与える影響

課税所得が生じる時期及び金額は、将来の不確実な経済状況の変動によって影響を受ける可能性があり、実際に生じた時期及び金額が見積りと異なった場合、翌連結会計年度以降の連結計算書類において繰延税金資産を認識する金額に重要な影響を与える可能性があります。このため、②に記載した主要な仮定については最善の見積りを前提にしておりますが、今後の経済動向によって、事後的な結果と乖離が生じる可能性があります。

## 3. 連結貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額及び減損損失累計額 1,064,518千円

#### 4. 連結損益計算書に関する注記

##### 1. 減損損失

建物29,421千円、工具、器具及び備品2,440千円に関して投資の回収が見込めなくなったため、減損損失を特別損失として計上しております。

##### 2. 受取和解金

事業所の明け渡しに伴い受領した61,428千円を受取和解金として特別利益に計上しております。

#### 5. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

##### 1. 当連結会計年度末日における発行済株式の総数

普通株式 4,200,000株

##### 2. 当連結会計年度末日における自己株式の総数

普通株式 406,761株

##### 3. 配当に関する事項

###### (1) 配当金支払額

| 決議                   | 株式の種類 | 配当金の総額<br>(千円) | 1株当たり<br>配当額 (円) | 基準日        | 効力発生日      |
|----------------------|-------|----------------|------------------|------------|------------|
| 2022年6月23日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 37,932         | 10.00            | 2022年3月31日 | 2022年6月24日 |

###### (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| 決議予定                 | 株式の種類 | 配当金の<br>総額<br>(千円) | 配当の<br>原資 | 1株当たり<br>配当額<br>(円) | 基準日        | 効力発生日      |
|----------------------|-------|--------------------|-----------|---------------------|------------|------------|
| 2023年6月27日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 53,105             | 利益<br>剰余金 | 14.00               | 2023年3月31日 | 2023年6月28日 |

#### 6. 金融商品に関する注記

##### 1. 金融商品の状況に関する事項

###### (1) 金融商品に対する取組方針

主に介護事業を行うための事業計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入）を調達しております。  
なお、投機的な取引は行わない方針であります。

###### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、大部分が介護保険制度に基づく債権であり、相手先が保険者（市町村及び特別区）であるため、リスクは微小であります。一方、個人負担額及びエンゼルケア事業の債権については、顧客の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、ほとんど2ヶ月以内の支払期日であります。  
 長期借入金（原則として5年以内）は主に設備投資に係る資金調達です。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権については、与信管理規程に従い、主要な取引先の信用状況を把握するとともに、債権回収の期日管理を行い、回収懸念の早期把握に努めております。

②資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

事業計画及び各部署からの報告に基づき、適時に資金計画を作成・更新することにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2023年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。また、現金は注記を省略しており、預金は短時間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

|                            | 連結貸借対照表計上額<br>(千円) | 時価 (千円)   | 差額 (千円) |
|----------------------------|--------------------|-----------|---------|
| (1) 売掛金                    | 1,411,554          |           |         |
| 貸倒引当金 (※)                  | △347               |           |         |
|                            | 1,411,206          | 1,411,206 | —       |
| (2) 敷金及び保証金                | 207,852            | 197,140   | △10,711 |
| 資産計                        | 1,619,059          | 1,608,347 | △10,711 |
| (1) 買掛金                    | 132,703            | 132,703   | —       |
| (2) 未払金                    | 22,766             | 22,766    | —       |
| (3) 未払法人税等                 | 174,892            | 174,892   | —       |
| (4) 長期借入金<br>(1年以内返済予定を含む) | 12,530             | 12,530    | —       |
| (5) リース債務<br>(1年以内返済予定を含む) | 137,464            | 136,728   | △736    |
| 負債計                        | 480,357            | 479,620   | △736    |

(※) 売掛金に計上している貸倒引当金を控除しております。

### 3. 金融商品の時価等のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

#### (1) 時価をもって連結貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債

| 区分                         | 時価（千円） |           |      |           |
|----------------------------|--------|-----------|------|-----------|
|                            | レベル1   | レベル2      | レベル3 | 合計        |
| (1) 売掛金<br>貸倒引当金（※）        |        |           |      |           |
|                            | —      | 1,411,206 | —    | 1,411,206 |
| (2) 敷金及び保証金                | —      | 197,140   | —    | 197,140   |
| 資産計                        | —      | 1,608,347 | —    | 1,608,347 |
| (1) 買掛金                    | —      | 132,703   | —    | 132,703   |
| (2) 未払金                    | —      | 22,766    | —    | 22,766    |
| (3) 未払法人税等                 | —      | 174,892   | —    | 174,892   |
| (4) 長期借入金<br>(1年以内返済予定を含む) | —      | 12,530    | —    | 12,530    |
| (5) リース債務<br>(1年以内返済予定を含む) | —      | 136,728   | —    | 136,728   |
| 負債計                        | —      | 479,620   | —    | 479,620   |

(注) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

#### 売掛金

一定の期間ごとに区分した債権ごとに、債権額と満期までの期間及び信用リスクを加味した利率を基に割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

#### 敷金及び保証金

国債利回り等適切な指標による利率で割引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

### 買掛金、未払金及び未払法人税等

これらの時価は、一定の期間ごとに区分した債務ごとに、その将来キャッシュ・フローと、返済期日までの期間及び信用リスクを加味した利率を基に割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

### 長期借入金及びリース債務

これらの時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

## 7. 収益認識に関する注記

### (1) 収益の分解

|               | 売上区分 (千円) |             |           |           |
|---------------|-----------|-------------|-----------|-----------|
|               | 在宅介護サービス  | シニア向け総合サービス | 計         | 合計        |
| 通所介護          | 4,378,770 | —           | 4,378,770 | 4,378,770 |
| 訪問入浴          | 1,201,457 | —           | 1,201,457 | 1,201,457 |
| 居宅介護支援        | 422,235   | —           | 422,235   | 422,235   |
| 訪問看護          | 123,039   | —           | 123,039   | 123,039   |
| エンゼルケア        | —         | 2,256,472   | 2,256,472 | 2,256,472 |
| グリーンサービス      | —         | 197,690     | 197,690   | 197,690   |
| その他           | 555,178   | 102,334     | 657,512   | 657,512   |
| 顧客との契約から生じる収益 | 6,680,681 | 2,556,498   | 9,237,179 | 9,237,179 |
| 外部顧客への売上高     | 6,680,681 | 2,556,498   | 9,237,179 | 9,237,179 |

### (2) 収益を理解するための基礎となる情報

1-4 (4) 「収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

## 8. 1株当たり情報に関する注記

- |               |         |
|---------------|---------|
| 1. 1株当たり純資産額  | 610円61銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 85円36銭  |

# 個別注記表

## 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 有価証券の評価基準及び評価方法  
子会社株式 移動平均法に基づく原価法
2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
商品 先入先出法による原価法  
(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)  
原材料及び貯蔵品 先入先出法による原価法  
(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)
3. 固定資産の減価償却の方法
  - (1) 有形固定資産 (リース資産を除く) 定率法。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については定額法  
主な資産の耐用年数  
建物 7～15年  
工具、器具及び備品 2～15年
  - (2) 無形固定資産 (リース資産を除く) 自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間 (5年) に基づく定額法によっております。
  - (3) リース資産  
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零 (残価保証の取決めがある場合は残価保証額) とする定額法を採用しております。
  - (4) 長期前払費用 均等償却
4. 引当金の計上基準
  - (1) 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
  - (2) 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

### (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しております。

#### ①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

#### ②数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異及び過去勤務費用については、その発生時に一括費用処理しております。

## 5. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

- (1) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準  
外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
- (2) のれんの償却方法及び償却期間  
のれんについては、5年間の定額法により償却を行っております。

### (3) 会計方針の変更に関する注記

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、当該会計基準適用指針の適用が計算書類に与える影響はありません。

## 2. 会計上の見積りに関する注記

### 1. 繰延税金資産の回収可能性

- (1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

繰延税金資産 164,554千円

- (2) 会計上の見積りの内容について計算書類利用者の理解に資するその他の情報

連結計算書類 連結注記表 3 「会計上の見積りに関する注記」に記載のとおりであります。

## 3. 貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額及び減損損失累計額 1,057,329千円

2. 関係会社に対する金銭債権又は金銭債務

区分表示されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は、次のとおりであります。

|                |           |
|----------------|-----------|
| 関係会社に対する短期金銭債権 | 118,364千円 |
| 関係会社に対する長期金銭債権 | 40,000千円  |
| 関係会社に対する短期金銭債務 | 2,582千円   |

4. 損益計算書に関する注記

1. 関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の取引高の総額

|                |         |
|----------------|---------|
| 営業取引（支出分）      | 4,269千円 |
| 営業取引（収入分）      | 360千円   |
| 営業取引以外の取引（収入分） | 1,283千円 |

2. 減損損失

建物29,421千円、工具、器具及び備品2,440千円に関して投資の回収が見込めなくなったため、減損損失を特別損失として計上しております。

3. 受取和解金

事業所の明け渡しに伴い受領した61,428千円を受取和解金として特別利益に計上しております。

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末日における自己株式の総数

|      |          |
|------|----------|
| 普通株式 | 406,761株 |
|------|----------|

## 6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳

|           |           |
|-----------|-----------|
| 繰延税金資産    |           |
| 賞与引当金     | 46,808千円  |
| 退職給付引当金   | 62,230千円  |
| 関係会社貸倒引当金 | 31,266千円  |
| 資産調整勘定    | 5,327千円   |
| 未払事業税     | 16,140千円  |
| 関係会社株式評価損 | 9,186千円   |
| 資産除去債務    | 12,233千円  |
| 未払社会保険料等  | 6,992千円   |
| 減損損失      | 10,347千円  |
| 繰延消費税等    | 2,773千円   |
| その他       | 2,070千円   |
| 繰延税金資産小計  | 205,376千円 |
| 評価性引当額    | △40,452千円 |
| 繰延税金資産合計  | 164,924千円 |
| 繰延税金負債    |           |
| 顧客関連資産    | △369千円    |
| 繰延税金負債合計  | △369千円    |
| 繰延税金資産の純額 | 164,554千円 |

## 7. 関連当事者との取引に関する注記

| 種類  | 会社等の名称                   | 議決権等の<br>所有(被所有)<br>割合(%) | 関連当事者<br>との関係  | 取引の内容                   | 取引金額<br>(千円)  | 科目                | 期末残高<br>(千円) |
|-----|--------------------------|---------------------------|----------------|-------------------------|---------------|-------------------|--------------|
| 子会社 | 上海福原護理服務有限公司             | 所有<br>直接<br>100.0         | 役員の兼任<br>資金の援助 | 資金の貸付<br>(注)1,2         | 6,516<br>(注)3 | 流動資産<br>その他       | 78,115       |
|     |                          |                           |                | 出向社員給<br>与等の未収<br>額(注)2 | 3,367<br>(注)4 | 流動資産<br>その他       | 40,140       |
| 子会社 | 株式会社ケアサービス<br>ヒューマンキャピタル | 所有<br>直接<br>100.0         | 役員の兼任<br>資金の援助 | 資金の貸付<br>(注)1,5         | —             | 関係会社<br>長期貸付<br>金 | 40,000       |

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1. 資金の貸付に係る金利については、市場金利を勘案し決定しており、返済条件は当該会社と個別に交渉し、決定しております。

(注) 2. 債権について、貸倒引当金(71,236千円)を設定しております。

- (注)3. 取引金額は貸付金の増加額となります。  
(注)4. 取引金額は債権の増加額となります。  
(注)5. 債権について、貸倒引当金(30,874千円)を設定しております。

## 8. 収益認識に関する注記

1. 収益を理解するための基礎となる情報  
連結計算書類 連結注記表 1-4 (4)「収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

## 9. 1株当たり情報に関する注記

- |               |         |
|---------------|---------|
| 1. 1株当たり純資産額  | 617円14銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 94円23銭  |